

a journal

N

NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・
ノイ

82025
月号

〒464-0850
名古屋市千種区今池 1-6-13
今池スタービル 2F
Tel.052-734-7467
https://nk-neu.com

8月の定休日
火曜日
8/5・19・26
9/2

毎月発行

RESERVATION

■各作品の10日前から上映1時間前までは公式サイトからプリペイドで席のご予約ができます。

■現金でのご購入、特別鑑賞券、ご招待券をご使用の方は、10日前から当日までの窓口受付(座席指定)をご利用ください。

PLATFORM

公式サイト

公式 Facebook

公式 X
@nkn_2024

公式 Instagram
@nkn_2024

上映スケジュール表は2面をご覧ください

ACCESS

ナゴヤキネマ・ノイ

▶地下鉄今池駅⑨・⑩番出口より徒歩3分

▶今池スタービル2F(契約駐車場なし)

7.26(土)～8.15(金)

『それでも私は Though I'm His Daughter』

監督:長塚洋(2025年119分)
●舞台挨拶:8/3(日)長塚監督



7.26(土)～8.22(金)『黒川の女たち』

監督:松原文枝(2025年99分)
●舞台挨拶:7/27(日)
松原文枝監督、江口英明プロデューサー、スタッフの方々



8.2(土)～8(金)『くまをまつ』

監督:滝野弘仁(2024年113分)
●舞台挨拶:8/2(土)瀬戸かほさん(俳優・モデル)、平野鈴さん(本作出演)



8.2(土)～8(金)『雪解けのあと』

監督:ルオ・イシャン(2024年110分)



8.9(土)～15(金)『コルチャック先生』

監督:アンジェイ・ワイダ(1990年118分)



8.9(土)～29(金)『原爆スパイ』

監督:スティーヴ・ジェームズ(2022年101分)



8.9(土)～15(金)

『スライ・ストーン』

監督:ウィレム・アルケマ(2015年74分)



8.16(土)～29(金)

『オルエットの方へ(4K)』みんなのジャック・ロジェ



- ※当館は2K上映。 (6プロ/入替)
- ①オルエットの方へ4K(1971年162分)
 - ②『ブルー・ジーンズ』(1958年24分)
 - ③『バルドー/ゴダール』(1963年10分)
 - ④『パパラッツィ』(1963年20分)
 - ⑤アデュー・フィリピーヌ(1962年110分)
 - ⑥トルデュ島の避難者たち(1976年146分)
 - ⑦メーヌ・オセアン(1985年136分)
 - ⑧フィフィ・マルタンガル(2001年120分)

8.16(土)～29(金)

ショーン・ベイカー初期傑作選



《4作品/入替》

- ①フォー・レター・ワーズ(特別上映2000年82分)
- ②テイクアウト(共同監督ツォウ・シンチン2004年87分)
- ③プリンス・オブ・ブロードウェイ(2008年100分)
- ④スターレット(2012年103分)

8.23(土)～29(金)

『また逢いましょう』

監督:西田宣善(2025年91分)



8.23(土)～『砂時計サナトリウム』

監督:ブラザーズ・クエイ(2024年76分)



8.30(土)～『炎はつなぐ』

監督:大西暢夫(2025年122分)



8.30(土)～ヤン・シュヴァンクマイエル『蟲』



《3作品/入替》

- ①蟲(2018年98分)
 - ②鎌金炉アタノール(監督:ヤン・ダン、アダム・オルハ2020年123分)
 - ③クンストカメラ(2022年120分)
- ※9/6(土)から
「ヤン・シュヴァンクマイエル傑作選」
も同時公開。

8.30(土)～9.5(金)『V.MARIA』

監督:宮崎大祐(2025年94分)
※9/1(月)・4(木)は
特典映像「追憶と黎明」(17分)出演:SUGIZO)も上映。



8 月上映スケジュール表

8/5・19・26・9/2(火)は休館です。

※8 12(火)は開館いたします。

8/2(土)～8(金)

	8/2(土)	3(日)	4(月)	6(水)	7(木)	8(金)
11:00	『黒川の女たち』					
13:00	『くまをまつ』					
15:10	『それでも私は』					
17:30	『雪解けのあと』					
19:40	EU⑬フリー	EU⑭心の法	EU⑮キツネのフォス	EU⑯ビッグ・マン	EU⑰イカロスと	EU⑱ドンとDJの

8/9(土)～15(金)

	8/9(土)	10(日)	11(月)	12(火)	13(水)	14(木)	15(金)
11:00	『コルチャック先生』						
13:15	『黒川の女たち』						
15:15	『原爆スパイ』						
17:15	『それでも私は』						
19:30	『スライ・ストーン』						

8/16(土)～22(金)

	8/16(土)	17(日)	18(月)	20(水)	21(木)	22(金)
11:00	『黒川の女たち』					
13:00	①オルエットの方へ	⑤メーヌ・オセアン	④トルテュ島の	①オルエットの方へ	⑥フィフィ・マルタン	①オルエットの方へ
16:00	②テイクアウト	④スターレット	③プリンス・オブ・	②テイクアウト	④スターレット	③プリンス・オブ・
17・18 時台	17:50 ③プリンス	18:10 ②テイクアウト	18:00 ④スターレット	17:50 ③プリンス	18:10 ②テイクアウト	18:00 ④スターレット
20:00	『原爆スパイ』					

8/23(土)～29(金)

	8/23(土)	24(日)	25(月)	27(水)	28(木)	29(金)
11:00	『また逢いましょう』					
13:10	『原爆スパイ』					
15:10	④スターレット	①フォー・レター・	③プリンス・オブ・	②テイクアウト	④スターレット	③プリンス・オブ・
17:10	『砂時計サナトリウム』					
18:45	③アデュー・フィリピーヌ	①オルエットの方へ	②『ブルー・ジーンズ』他	①オルエットの方へ	①オルエットの方へ	①オルエットの方へ

8/30(土)～9/5(金)

	8/30(土)	31(日)	9/1(月)	3(水)	4(木)	5(金)
11:00	『炎はつなぐ』					
13:20	『砂時計サナトリウム』					
15:00	ヤン・シュヴァンクマイエル①『蟲』					
17:00	②鍊金炉アタノール	③クンストカメラ	②鍊金炉アタノール	③クンストカメラ	②鍊金炉アタノール	③クンストカメラ
19:20	『V.MARIA』 ※9/1(月)・4(木) 特典映像「追憶と黎明」(17分)も上映。					

ご入場料金・入替制

一般 1800 円 大学生・会員 1400 円 高校生以下 1000 円 シニア(60 歳以上)1300 円
障がい者・会員(シニア・学生)1100 円 ペア割(2 名)2800 円

○会員サービスディ:木曜日 会員・障がい者 1000 円・会員 1 名とのペア(2 名)2000 円
○ファーストディ 一般 1200 円 会員・障がい者 1000 円

○「みんなのジャック・ロジェ」②短編集のみ

一般・大学生・会員・シニア 1200 円 会員(シニア、大学生)・障がい者・高校生以下 1000 円

会員募集

お申込日から 1 年有効で 2000 円。
会員特典は当日ご料金の引きのみにになります。
受付は劇場窓口にてお願いいたします。

『それでも私は Though I'm His Daughter』

麻原彰晃こと松本智津夫。オウム真理教の教祖として、1995 年の地下鉄サリン事件を始め、日本社会を震撼させた首謀者である。その三女として生まれた松本麗華は、父の逮捕時には 12 歳。教団での呼び名アーチャリーとして知られた。本作は、避けようもなくその後の 30 年を生きたこととなった松本麗華の日常を撮る。父の凶行の責めを負い続け、死刑の執行の前に、事実を父の口から聞きたいと願った彼女の姿を、そして、今後の人生をも真摯に見つめる強烈なドキュメンタリー。(119 分)

『くまをまつ』

祖父の死をきっかけに、故郷石川県の山間の村に住むことになった脚本家ややこ(平野鈴)。彼女の元に甥の小学生タカシ(染谷いる太)がやってくる。家族の都合で、一夏を過ごすことになるふたり。タカシもややこも、互いの距離感をうまく掴めないでいたが、祖父の日記を元にした脚本の内容と現実の境目が薄れ、時間と空間も溶け合い、少年のひと夏は忘れがたいものとなる。俊英滝野弘二によって未来へと繋がれる一篇。(113 分)

『黒川の女たち』

国策のもと実施された満蒙開拓。敗戦直前、突如侵攻したソ連軍を前に、関東軍は開拓団を守ることなく撤退し、岐阜県からの黒川開拓団の人々は、18 歳以上の女性たちをソ連軍将校に差し出し、庇護を求めた。帰国後、女性たちを待っていたのは、誹謗中傷と差別だった。戦後、封印されてきた性暴力の実態を、彼女たちは勇気を持って語り出し、その尊厳が少しずつ回復されていく。『ハマのドン』の松原文枝監督が、その闘いを支えるように映画化。ナレーション担当は大竹しのぶ。(99 分)

『雪解けのあと』

2017 年、ネパールで遭難した台湾の若者二人が発見され救助報道を賑わす。救援の三日前に亡くなったチュンと生還したユエ。下山後の二人と合流する予定だった本作の監督ルオ・イシャンは、互いの生き方に強く惹かれ合っていた親友チュンが生の間際まで書き残した様々な言葉をたどり、道標に最後の日々を追いかけていく…喪失と再生を映しだし心震わす圧巻のドキュメンタリー映画。(110 分)

『コルチャック先生』

『灰とダイヤモンド』で知られるポーランド映画の巨匠アンジェイ・ワイダがナチス占領下のポーランドでユダヤ人孤児の権利のために奔走した医師・児童文学者のヤヌシュ・コルチャックの実話を映画化した名作のリバイバル公開。(118分)

『原爆スパイ』

広島と長崎に投下された原子爆弾を開発したオッペンハイマー博士のマンハッタン計画に最年少の18歳で参加した理論物理学者テッド・ホール。戦後の東西冷戦による軍拡競争への懐疑から望んでスパイ活動に飛び込んだホールとジョン夫婦の半生を、記録と映画によって克明に描きだし、大量破壊兵器への警鐘を鳴らす必見作。監督はアカデミー賞受賞作『フープ・ドリームス』のステイヴ・ジェームズ。(101分)

『スライ・ストーン』

スライ&ザ・ファミリーストーンを率い、ファンク音楽の先駆者・作曲・プロデューサーとして偉大な足跡を残し6月に急逝したスライのドキュメンタリー映画(初公開2015年)を追悼上映します。(74分)

『オルエットの方へ(4K)』

みんなのジャック・ロジェ 6プロ/入替

輝くバカンスの季節を独特の視点で描きだし、ヌーヴェル・ヴァーグの監督たちの憧れの的でもあった名匠ロジェの傑作『オルエットの方へ』4Kマスター版を公開。パリのビジネス街から海へ、笑いが絶えない弾けた3人の休暇を生き生きと、同時に客観的な視線でとらえていく。昨年春に当館で公開した特集『みんなのジャック・ロジェ』に新たな短編『ブルー・ジーンズ』(24分)が加わって一挙公開。

ショーン・ベイカー初期傑作選

4作品/入替

昨年度のカンヌとアカデミー賞を制覇した『ANORAアノラ』のショーン・ベイカー監督の貴重な初期4作品。社会を構成するマイノリティの人々をみつめ、優れて胸打つ物語を紡ぎだす作風はケン・ローチやダルデンヌ兄弟からの影響だけでなく、米国の現実を超えた境地へと誘う、見応えが豊かな傑作選だ。NYの中華料理店のデリバリーで働く密入国の青年の心情を、スピードと弛緩の連続で描きだす必見の『**ティクアウト**』(87分)。偽ブランド品を売る移民の青年が赤子を託されてしまう…ハリウッド的なおとぎ話をリアルな視点で描くキュートな『**プリンス・オブ・ブロードウェイ**』(100分)。女優志望のジェーンと老婦人ジェーンとの交流をユーモラスに描く感動作『**スターレット**』(103分)。アメリカ郊外の男子大学生たちを生々しく描いた長編デビュー作『**フォー・レター・ワーズ**』(1回限 82分)。

『また逢いましょう』

事故で怪けを負った父親と同居することになった漫画家の夏川優希(大西礼芳)。ぎこちない間柄は、ある介護施設に通うことで少しずつ変化を見せる。ふたりにとってのりハビリなのだろうか。大西礼芳の伸びやかな存在感が光る。京都でデイクア施設を運営する伊藤芳宏の著書「生の希望 死の輝き 人間の在り方をひも解く」を元にした梶原阿貴(『桐島です』)の脚本がきっちりした構成で物語を支える。西田宣善は、長く宣伝や配給などの仕事をつとめ、満を持しての監督デビュー。(91分)

『砂時計サナトリウム』

現代アニメーションの世界的巨匠ブラザーズ・クエイ。1986年の『ストリート・オブ・クロコダイル』の衝撃はいまだ醒めず、『ピアノ・チューナー・オブ・アースクエイク』以来、世界中のファンが新作長編を心待ちにしていた。19年ぶりの新作長編は、ブルーノ・シュルツの幻想小説『砂時計』(ポーランドのヴォイチェフ・イエジー・ハスの映画化で知られる)を元にした怪奇風味炸裂のダークファンタジーだ。死の床にある父を見舞いに訪れた異様なサナトリウムで起きたことは…。(76分)

『炎はつなぐ』

和ローソクの製造過程を取材しているうちに、蠟の原料となるハゼの実の採集・繋がり、ハゼ蠟の精製、藍染め、藍の生産、和紙の原料であるミツマタの栽培から、和紙や金箔の職人などなど、連関する工芸の数々を丁寧に取材していくドキュメンタリー作品。手間のかかる作業が細やかな配慮のもとで進められていく様子を、大西暢夫監督(『水になった村』など)が、繊細かつ大胆に紡ぐ。細々と継続される伝統工芸が互いに支えあって成り立っていることを思い知らされる一篇。(122分)

next arts 通信

被爆 80 周年記念 記憶と物
ーモニュメント・ミュージアム・アーカイブー

広島市現代美術館で6月21日から開催されている企画展(9月15日まで)は、「戦後」ではなく「被爆80周年記念」と銘打たれている。かつてあった銅像の権威や、美術館コレクションの価値、そして招聘アーティストによる過去との対話的アプローチとは、アーティメント・ミュージアム・アーカイブのキーワードが示すように、戦争や原爆の「記憶」とアート作品をはじめとする「物」との関係を多層に紡いだ内容だった。

展示室は、「加藤友三郎元帥銅像」(1935)の写真複製から始まる。今は台座だけが現存するこの約9.3mに及ぶモニュメントの変遷や、作者の上田直次の紹介も興味深い。美術館所蔵のイサム・ノグチ『広島の実爆死没者慰霊碑(1/5 模型)』も展示。戦後の広島都市計画を把握したうえで、なんともアイロニーとユーモアに満ちて出色なのは、黒田ダイスケ『自由の女神について』(2022)だった。映像の中で、ヤギの姿をした上田直次、イサム・ノグチはハエの姿で登場。黒田おなじみの憑依型手法で、彫刻家たちが対話する。単なるパロディではなく、現代彫刻への豊富な知見が生きた内容だ。筆者は展示室で声を出して笑ってしまったが、他には寿山凡太郎、薦谷崇、フィオナ・アムゼン、小森はるか+瀬尾夏美が参加、それぞれに戦争や原爆体験をテーマにした作品やワークショップ記録が展観でき、必見である。

【トト】

ナニやってんだか！(9)

6月にあった中電の株主総会で株主提案をしました。▽CO2を回収して地下に溜めることやアンモニアや水素を混ぜて燃やすから温暖化の対策はできますと言っているけど、それってできごない技術だから、さっさと止めなさい。▽浜岡原発は南海トラフ巨大地震への万全の対策をしなくちゃいけないけどボントにできるの分からない。そして、原発は原爆数千発分の放射能を抱えているので、そもそもが危険。だから再稼働しないでおきましょう▽活断層が直下にある日本原電の敦賀原発2号機は、原子力規制委員会が動かさせませんと言ってるし、運転開始38年の老朽原発。それなのに毎年100億円くらいの電気代を払っていてそれが、3000億円にもなっている。電気は来ないのに電気代を払うのは、めちゃ俺、だからもう止しましょう。▽イギリスは原発から出る使用済み核燃料を再処理して取り出されたプルトニウムは「もうだだのゴミ」だから地中に捨てるって決めました。ところが、17.5兆円使って31年経っても完成しない六ヶ所再処理工場、だから核燃料サイクルは止めるしかない。▽関電とのカルテル、東邦ガスともカルテル。コンプライアンス違反しているけど反省していると思えないので、情報公開と対話を積極的になさね。

以上5つの当たり前の提案をしたのですが、すべて否決！「これからはあらゆる発電方法で安定供給します」だって。これって何も変えないってことです。ナニやってんだか！

(しょう)

ヤン・シュヴァンクマイエル『蟲』^{むし}

3作品/入替

チェコのシュルレアリストにして、世界的アニメーション作家、ヤン・シュヴァンクマイエル。豊かなイマジネーションの発露はファンを魅了してやまない。最新作にて最後の長編『蟲』(98分)は、チャベック兄弟の戯曲「虫の生活」上演準備中のアマチュア劇団の物語だが、一筋縄ではいかないメタ構造で、趣味の世界暴走気味。虫類苦手なヒトにはあらかじめご容赦を。合わせて、亡き妻エヴァの思い出やプロデューサーとの確執など、入門編とも言えるドキュメンタリー『鍊金炉アタノール』(123分)、ガラクタなのかお宝なのか理解不能なコレクション山積みのお宅拝見の不思議記録『クンストカメラ』(120分)も上映。9月には傑作選の特集も予定！

『V.MARIA』

母の遺品の中に、若い頃に熱狂していたと思われるCDや写真、そして自分自身の名前と同じラベルが貼られたカセットテープを見つけた高校生のマリア(菊地姫奈)。母子家庭で育った彼女が全く知らない母の姿であり、ビジュアル系と呼ばれる音楽との運命的な出会いになった。母の足跡を追いながら、彼女の世界は劇的に広がっていく。『大和(カリフォルニア)』『VIDEOPHOBIA』の宮崎大祐監督作品。(94分)

パットと、みて、ポン！

能登演劇堂へ行ってきた。観に行ったのは無名塾『肝つ玉おっ母と子供たち』公演。仲代達矢さんが主宰する劇団で、かつて能登をご夫婦で訪れた時にこの地を気に入り、ついにはホールを作るに至った。出来てから30年、行きたいという願いが今回ようやく叶った。客席に座って舞台を眺めると、なんて見やすいのだろう。舞台への傾斜といい、席の配置といい、これほど舞台へ集中できる劇場は稀有だ。開演して舞台の奥が闊くと、そこには劇場裏の「本物の森」が現れる。その中を、荷車を引いたおっ母と子供たちが舞台へと入ってくる。その光景に目を見張る。唐十郎さんが率いた赤テントの巨大ホール版といったところだが、そこに現れる自然の光景は、それとも異なる。加えて行政のバックアップが素晴らしい。施設がある七尾市だけでなく、近隣の市町村、そしてお隣の富山県にも、公演のポスターが貼られていた。役所から民間の店舗まで、地域の受け入れ態勢が広範囲に及んでいる。なんとも羨ましい。今回は、宿泊地として和倉温泉を選んだ。大きな旅館が立ち並ぶが、そのほとんどは地震の被害から解体の運命にある。工事車両がひっきりなしに行きかい、重機が動き続ける。「こんなところに観光気分であて良いのか？」と思うが、営業を始めている宿や飲食店もあり、彼らは来客を期待する。筆者にはボランティアをする体力はないが、少しでも彼らの力になればと、その地で温泉に入り、旨い魚を食べ、土産品を買っていく。こういう手段もある。(P)

ウニタ書店情報 (052-731-1380)

ロシアによるウクライナ侵略は、一時的な停戦すら実現しないまま続いている。ウクライナ側は欧米各国の支援を受けて反撃しているが、アメリカのトランプ政権が関与を弱める中、ロシア側はこの機に乗じて攻撃を強めており、先行きは不透明になってきている。日本での報道は、プーチン大統領の発言や行動に偏っていることもあり、ロシアは独裁国家との印象が強い。しかし、国民の支持は今日でも高く、表面的には安定しているように見える。その理由を明らかにしているのが、5月刊行の『**ロシア政治**』(中公新書)である。

著者の島崎将雅氏は、30代の若手研究者であるが、留学で2年間、サンクトペテルブルクで過ごした体験も生かし、ソ連解体以降の複雑かつ変容の激しいロシアの政治過程を統治機構・経済・市民社会・メディア等の観点から綴っている。

エリツィン大統領時代には、一時的にせよ政治的多元性が存在したにも拘わらず、権威主義的支配体制が構築されたのは何故か。それは反対派を弾圧するだけでなく、様々な懐柔策で市民を取り込んできたからだとし、その意味でプーチンは「民衆に支持される21世紀型独裁者」だと評している。

ロシア市民にとって、体制批判をしない限り、平穏で安定した生活が送れるのである。このことは、私たちにとっても他人事ではないように思う。

いなかのじけん

軽トラ無情

軽トラ壊れる。前輪を支えるなんちゃらが折れて、JAFの人に言わせると車の骨折である、全治5万円ぐらいいかな、と。冗談じゃない、車検すましたばかりじゃ、リコール対象じゃ、と思ったがこの車、走行距離はそんなでもないが21年経っている。これは立派な経年劣化である。

軽トラパンクする。ジャッキが見当たらなかったんでJAFの人に来てもらって、スペアタイヤに取り換えてもらった。すと「タイヤはどこで直してもらうつもりですか。」「いつもは修理工場に行きつもりですが。」「ここからどれくらいですか。」変なコトを聞いてくるな、お安いトコで紹介してくれんのかな。「車で15分ぐらいいかなあ。」このスペアですが、ひび割れていて、このまま走るとバーストする恐れがあります。15分くらいならパンクしたタイヤに空気を入れても、もちますのでその方が安全だと思います。」「ぜひそうして下さい。」経年劣化である。

軽トラ売れるか。インド人がやって来る。「こわれたくま売ってくれませんか。」「いやー、残念ながらそんな車はありません。」「そのくるまデス。」軽トラを指す。「これは現役バリバリです！」お帰り願った。ところが、アメリカで中古軽トラが人気だそうで、本来左ハンドルでないと駄目だが、25年以上のはクラシックカー扱いでOK。そうだったのか。もう少しで売れるぞ、ウッッッ。ほくそ笑んでいたらトランプ関税だ。やっぱりか。

